

イザヤの預言 49：3、5～6

ヨハネ 1：29～34

初めに高円寺教会のみなさんに、お礼を申し上げたいと思います。すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、『カトリック新聞』の今週号に、2010年下半期に司祭叙階された6人の紹介が載っていて、その一人が私です。なんだか宣伝しているようで気恥ずかしいのですが、その中に「なぜ、司祭になりたかったのか？」という質問があって、わたしはこう答えています。「12年間の会社勤めの辛かった時期に、困難を一人で背負っている人が多くいることを感じました。そして、仕事をはじめ、疲れ傷ついている人たちを休ませるような司祭になりたいと望むようになり、このたび叙階されました。社会の環境が厳しくなる中で、神様がどのように私たちを救いに導こうとされているか共に探し出す司祭になることを願っています。」 実は、このような気持ちになった一つのきっかけは、第1朗読のイザヤ書にあります。4節に「主の御目にわたしは重んじられている」とあります。なぜかその前の3節が省かれているのですが、3節にはこうあります。「わたしは思った、わたしはいたずらに骨折り、うつろに、空しく、力を使い果たした、と」。会社に入って12年目の夏に、忙しい合間を縫って黙想会に出た時にこの言葉に出会いました。「がむしゃらに仕事をしてきた12年間は一体何だったんだろう？ 無駄じゃなかったのか？」と思っていた時にこの言葉に出会いました。「あなたのこれまでの人生は無駄ではなかった」と神様から言われたように感じ、今までの自分を肯定した上で、新しい生き方を探すようになりました。そして、自分と同じような孤独や試練に、人知れず耐えている人のために生きたいと、司祭の道を歩むことを考え始めました。「主の御目にわたしは重んじられている」の聖書箇所はとても思い入れが深い箇所です。皆さんにとっても励みになる箇所ではないでしょうか。

では、続いて、福音書の話をしてしましましょう。先程読まれた福音は、宣教活動の初めにイエスがヨハネから洗礼を受けている箇所です。今日は「ヨハネの洗礼」と「イエスの洗礼」の違いについてお話しします。

成人洗礼の方は思い浮かぶと思いますが、イエスも私たちと同じように大きな決心をして洗礼を受けました。福音書には、ただ、ヨハネの方に行った（「自分の方にイエスが来られるのを見て」）と簡単にしか書いてありません。でも、イエスは故郷のガリラヤの町、ナザレから出てきていますから、相当な覚悟をもっていたことがわかります。30年間生きてきた自分の生活に別れを告げて、母マリアを家に置いて、一人でヨルダン川まで出てきています。イエスにも、相当の覚

悟がありました。

覚悟をしてナザレを出てイエスが目指したのは、当時、ユダヤの社会で注目されていたヨハネの「悔い改めの洗礼」を受けることでした。ヨハネの「悔い改めの洗礼」とは、ごくごく簡単に言うてしまうと、みんなに「反省しなさい」と呼び掛ける洗礼でした。「あなたのこれまでの人生を反省しなさい。そして、悪いところを改めなさい」という洗礼でした。これに対し「イエスの洗礼」は「あなたの罪を私を取り去ります」という洗礼でした。ヨハネは、自分とは次元の違う洗礼を授けるイエスを見て恐れ入ったのでしょう。

さて、私たちは、今、どちらの洗礼を生きているのでしょうか？・・・反省型の「ヨハネの洗礼」でしょうか？罪を取り去ってくれる「イエスの洗礼」でしょうか？私たちは、「イエスの洗礼」を受けましたが、気をつけないと「ヨハネの洗礼」を生きるようになります。自分で反省して、自分の力で何とかしようとあがきます。わざわざイエスが、ナザレからヨルダン川に出てきたのは、わたしたちの罪を取り去るためだったということを忘れてしまいます。ただ、「イエスの洗礼」と言っても「悔い改め」は必要です。「悔い改め」は自分の弱さや至らなさを見ることになるのでやはり苦しいですが、どうしても必要です。「悔い改め」が必要なケースはいくつかありますが、今日は二つの極端について話します。一つは、プライドが高いタイプです。成功している人は、自分の努力で人生ここまで来たと自慢したくなります。上手いいかないのは努力不足だと人を見下げてしまいます。でも、神様の前で自分はどうか？と振り返る必要があります。考えてみたら、自分はたまたま運が良かっただけかもしれません。プライドが高い人の「悔い改め」は、神様の前の自分、小さな自分を認めることです。2つ目は、真面目なタイプが多いですが、自己評価が低く、自分を責めすぎるタイプの人です。自分は何をしてもダメだ、思っている人が教会の中には結構いるものです。少しの失敗でも、自分はもうクリスチャン失格だと思っけています。そんな自己評価が低い人は、神の愛を受け入れることが「悔い改め」になります。自分は何もできない、どうしようもないなと思っけている時に、さきほどの「主の御目にわたしは重んじられている」という言葉を思い出すことが「悔い改め」です。

今日もイエスは、私たちの罪を取り去りに来られています。わたしたちが、「イエスの洗礼」「罪を取り除いていただける洗礼」を受けたことを思い出し、その恵みに感謝しましょう。また、同じ洗礼の恵みをいただける人が、この高円寺教会に一人でも多く現われることを願ってこのミサを続けましょう。

イエズス会司祭 柴田 潔